

---

# インターネット実名化の妥当性、実効性について

---

中3-D-42 吉田 一 慧

## 目次

1. はじめに
  - 1.1 この主題について
  - 1.2 「インターネット実名化」とは
  - 1.3 具体的に本研究で扱う実名化とは
  - 1.4 既に考えられるメリット、デメリット
    - 1.4.1 実名制のメリット、デメリット
      - 1.4.1.1 実名制のメリット
      - 1.4.1.2 実名制のデメリット
    - 1.4.2 匿名性のメリット、デメリット
      - 1.4.2.1 匿名性のメリット
2. 考察
  - 2.1 「韓国で過去に行われた実名化」
    - 2.1.1 アクブルの数の推移
    - 2.1.2 アクブルが原因とされる自殺者数の推移
    - 2.1.3 総括
  - 2.2 モデル2「Facebookと旧Twitter」
    - 2.2.1 アクティブオンラインユーザー数
    - 2.2.2 アカウント売買のサイト数
    - 2.2.3 総括
3. 分類
  - 3.1 オーナー視点
  - 3.2 ユーザー視点
4. 最後に

# 1. はじめに

## 1.1 この主題について

「インターネット実名化の妥当性と実効性」という話題を聞いたことがあるだろうか。別言すると、インターネット上で実名制を採用するとして、その時に採用に要する労力に見合う効果、具体的には誹謗中傷の抑制などが得られるのかということだ。小難しいと思われる方もおられるかもしれない、しかしこの言葉は聞き覚えがあるのではないだろうか。「それってあなたの感想ですよね」。この言葉の元となる議論では、この話題が話し合われていたのだ。そこで、SNS上アカウントを作る際、自分の電話番号を持っていない私は、電話番号確認で手詰まりに陥る自分と、実名制というアカウント作成において条件が加わることに共通点を感じ、この研究を始めることにした。

## 1.2 「インターネット実名化」とは

現代の SNS の主流は、匿名性である。人気な SNS の多くは匿名性で、例として「YouTube」や「旧 Twitter(現 X)」などが挙げられる。実名制の是非を考察する上で、「匿名性」から意味を考えてみる。”Weblio 辞書”によると、「誰であるかが秘匿されており分からないようになっているさま( <https://www.weblio.jp/content/匿名性#>)」とある。ここでインターネットの匿名性では、主に実名を秘匿し、代わりとしてニックネームや ID を用いて、個人を判別している。そこで、そのニックネームや ID を持ったアカウントを作る際に、実名や住民票などの身元を判別できるものを紐づけることを義務化する、これがインターネット実名化の簡単な解釈である。



メールアドレスまたは電話番号 パスワード ログイン  
アカウントを忘れた場合

### 新規アカウントを作成

簡単に登録できます。

姓 名

携帯電話番号またはメールアドレス

パスワード

誕生日  
1995 4月 22

性別  
 女性  男性  カスタム

[アカウント登録]をクリックすることで、利用規約、データに関するポリシー、Cookieポリシーに同意するものとします。サービスに関連してFacebookからSMS通知が届くことがあります。これはいつでもオフに設定できます。

アカウント登録



Facebookに登録

### お名前を入力してください。

実名を入力してください。

姓 名

次へ

↑例:Facebook のログイン画面

この時点でかなりサービスの雰囲気が変わってきそうだが、そんなにも重要なものを取  
えて変えるには、それ相応のリターンが必要で、実際それはないとは言えないのである。

そして、メリットとデメリットが両者ともに保有する場合、どちらが総合的に見て、優  
れているかを吟味する必要がある。この研究では、主にその優劣を議論する。

### 1.3 具体的に本研究で扱う実名化とは

本研究で扱う「実名化」とは何か、具体的に示しておこうと思う。まず第一に、本人が  
匿名性のサービスの上で実名を公開することと、この主題「実名化」とは根本的に違うも  
のとする。よって、ここで述べられる「匿名性」も、実名公開をしていない場合が多いた  
め、基本的に大多数の「実名公開をしていない場合」について考えることとする。第二  
に、実名制に則ってアカウント作成をしたとすると、その登録に用いた氏名は前提とし  
て、虚偽のものではないものとする。

### 1.4 既に考えられるメリット、デメリット

#### 1.4.1 実名制のメリット、デメリット

##### 1.4.1.1 実名制のメリット

###### 実名制メリット①

**「自身の発言に対し、より強い責任感が生まれ、誹謗中傷の抑制が期待できる」**

本名が紐付けされている以上、現実とは切っても切れない関係にある。つまり同じよう  
に、一度印象の悪くなるようなことなど、やり直したいと思うようなことをしても、実名  
は一人一つしかないために、アカウントも一人一つなのである。なお、やり直しが難しい  
ということは、そもそも印象の悪くなるようなことはできなくなり、そのために発言の引  
き金も重くなるはずだ。これらが過激な発言の抑制に関与していることは事実と言えるだ  
ろう。したがって、誹謗中傷の減少にも多少の効果が期待できる。これは実名化するにお  
いて、大きなメリットである。この**実名制メリット①**によって、デマの抑制も期待でき、  
また発言に対する信用度が高まる。

###### 実名制メリット②

**「発言に対する責任感が生まれると、いい加減な発言はしづらい」**

したがって、デマへの効果や発言の信用度が高まり、より良いサービスになることは間  
違いない。

###### 実名制メリット③

**「アカウントの大量作成を防ぐことができる」**

大手匿名 SNS のほとんどは必ずと言っていいほど、フォロワー購入やアカウント売買を禁止しているが、これらを検索してみると、嫌なほどにたくさん売買サイトが候補に上がってくる。これらはアカウント一つの価値が低いから、という理由もあると思われる。これらは前述の通り、基本一人アカウント一つの実名制の SNS では、理論上起こり得ない話である。

#### 1.4.1.2 実名制のデメリット

##### 実名制デメリット①

「実名などの公開した以外の情報が、不特定多数に公開される恐れがある」

また、怪しいリンクを踏むなどして、ウイルスに感染する、あるいはハッキングを受けるなどして、ブラウザに保存されたログイン情報や個人情報が抜かれるという時に、より傷が深いのは実名制の SNS である。

##### 実名制デメリット②

「活発になりにくい」

実名制メリット①では、発言の引き金が重くなることによって、いい方向で言動の抑制をしていると述べた。これは良い面と考えられるが、一方でそれはマイナスの方向に作用することも考えられる。「発言の引き金が重くなる」、それすなわち発言しにくくなるということである。発言しにくくなると、当然ながら発言の数も減ってしまう。

Facebook、リアルな繋がりだからTwitterみたいに自由には投稿できなくてわりと窮屈やわ:(;´ω`);:

— [Redacted] December 10, 2022

「実名制」が活発になりにくいという見解は、総務省も同様の見解を出している。「活発になりにくい」という欠点は、SNS においてはとても重要なものではないだろうか。

##### ● 電子会議室における実名、匿名のメリット、デメリット（一般的傾向として）

項目	実名	匿名
メリット	荒れにくい	発言が活発になりやすい
デメリット	発言が活発になりにくい	荒れやすい

⇒ <https://www.soumu.go.jp/denshijiti/ict/sns/3-2.html>

## 1.4.2 匿名性のメリット、デメリット

### 1.4.2.1 匿名性のメリット

#### 匿名性メリット①

「発言しやすく、その分サービスとして活発なものになりやすい」

実名制とは真逆で、ネットでの発言が現実でも尾を引くということがないために、比較的自由で発言しやすいという特色があり、同時に発言しやすいとその分、アクティビティに積極的になる人が多く、サービスとして活発になる。

#### 匿名性メリット②

「個人情報を登録する必要がないため、ウイルスや情報漏洩に耐性がある」

これもまた実名制の対角となるもので、ブラウザに保存されたログイン情報や個人情報が抜かれるという時に、実名制では本名や諸々全て悪質な人間に渡ってしまうのだが、匿名性ではメールアドレスとパスワードが渡ってしまうだけで、最悪の場合乗っ取られる場合があるが、正しい対処をすれば多くは対応可能である。

### 1.4.2.2 匿名性のデメリット

#### 匿名性デメリット①

「アカウント購入などの、不正が蔓延しやすい」

匿名性のサービスでは、アカウント作成がかなり容易で、大量作成も実用的範囲でも可能である。大量作成まで出来てしまうと、売ってお金を稼ぐということまで出来てしまう。一例として、「旧 Twitter(現 X)」のフォロワー購入がよく認知されている。これらは、対策があるとしても、可能かつそれによって金銭を稼げたことが周知されてしまうと、新たな人が初めて更なる犯罪に繋がる可能性がある為に、そもそも起こらないようにすることの重要性が高く、かなり対策の優先度が高いように見られる。



<https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/platform-manipulation>

## 匿名性デメリット②

### 「過激な発言が多くなりやすい」

自由なのが長所である匿名性でも、自由が行き過ぎると、誹謗中傷が多発しかねない。またその中には、犯罪性が高いものや悪意が感じられるものもある。これらは、匿名性が故のものだと思われる。訴えられてしまえば終わりなのだが、それ以外であれば過激な発言をしても現実には影響がないから、問題がないと考える人もいるからだと思われる。つまり、有名でない限り、多くの人にとっては過激な発言でネット上の「自分」に対する印象が下がっても、どうでも良いのだ。

また、過激な発言が多くなる原因は次の匿名性デメリット③も関与していると考えられることもできる。

## 匿名性デメリット③

### 「アカウントに対する罰則や処分が機能しづらい」

今日の SNS の多くはアドミン、モデレーター権限（いわゆる管理者権限）でアカウント停止処分を課すことができる。所謂アカウント凍結、垢 BAN だ。ただし、それは匿名性の SNS ではあまり機能しない。なぜなら、匿名性においてのアカウントはいくらでも作成可能で、処置を課されてもまた新しいアカウントを作ってくれば良いからだ。

## 2. 考察

### 2.1 モデル 1 「韓国で過去に行われた実名化」

韓国では、2007 年から 2012 年にかけて、国によってインターネット実名化が行われていた。その実行の前後、廃止後をそれぞれ比較する。

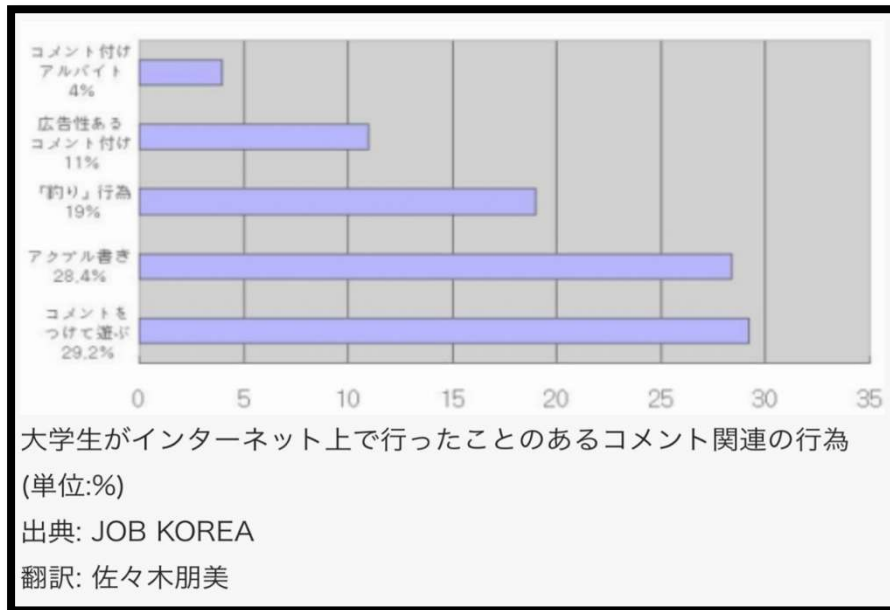
これまでネットでの誹謗中傷が多く、芸能人の自殺につながることも多かった韓国では、07年に「インターネット実名制」を導入。大規模サイトに書き込みをする場合には、本人確認などが必要となった。だが、12年に過度な規制による違憲と判断されて廃止。昨年10月には歌手のソルリさん（当時25）が、同11月には元「KARA」のク・ハラさん（同28）が自ら命を絶ったことで再導入を願う声も上がっている。

フランスではネット上での悪質なヘイトスピーチを24時間以内に削除することを企業側に義務付ける法案を今月採択。ドイツでも同様の法律が17年から施行されている。一方で表現の自由が損なわれるとして、法的対策に慎重な国も多い。

2020/05/27:<https://hochi.news/articles/20200527-OHT1T50002.html?page=1>

#### 2.1.1 アクプルの数の推移

アクプルとは、韓国語で悪意のあるコメントのことで、日本で言う中傷やアンチコメントのことである。これは韓国で社会問題となっており、この画像はその深刻性を表す資料である。



<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20070618-a001/>

そして、実名制導入前後で、アクトルの数がどう推移したか。

区分	施行前		施行後		比重差 (B-A)	比重増減率 (B-A)/A
	個数	構成比 (A)	個数	構成比 (B)		
全体	10,924	100.0	13,472	100.0	-	-
アクトル	1,722	15.8	1,867	13.9	-1.9	-12.1
重度アクトル	974	8.9	896	6.7	-2.2	-25.4
軽度アクトル	748	6.8	971	7.2	0.4	5.3
正常コメント	9,202	84.2	11,605	86.1	1.9	2.3

(単位: 個、%)

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20071004-a048/>

アクトルの数自体は、実名化施行後の方が多く見えるが、偶然コメント全体が多い時期であったため、構成比に目を向けると、約 1.9%ものアクトルの削減に成功している。しかし、見方によっては「たったの 1.9%」であるため、これがたまたまアクトルが少なかった時期であったとも取れる。従って、アクトルの抑制自体に対する、大きな効果は保証されない。

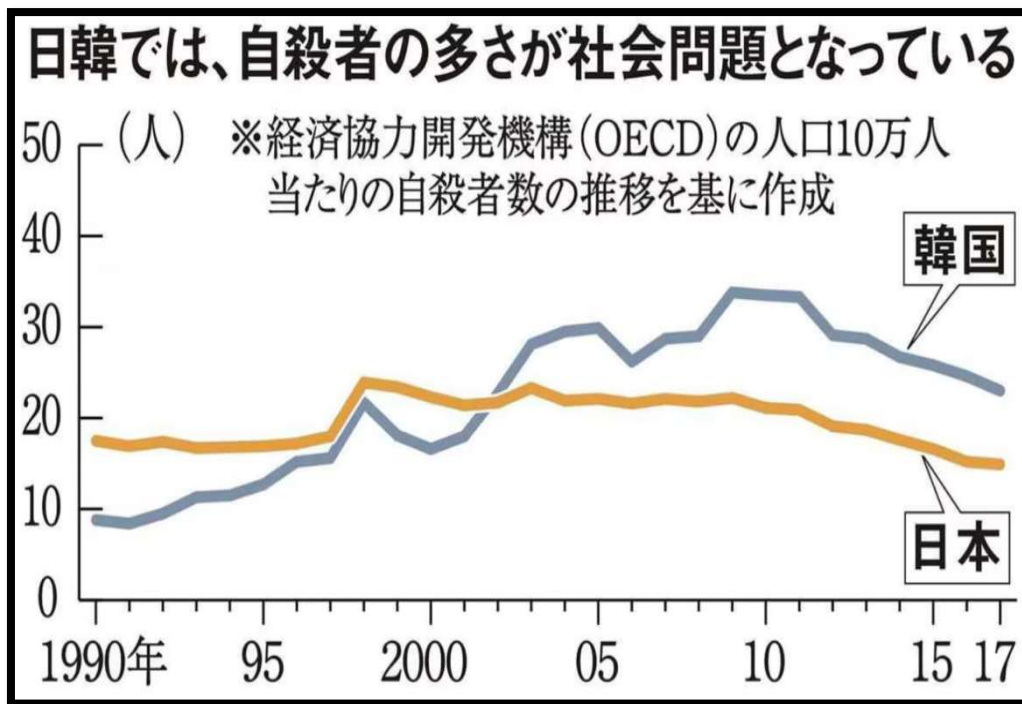
一方で、アクトルの重さを考えた、比重増減率では大きな変化がある。そして、この資料では、重度アクトルと軽度アクトルを、このように定義づけている。

部では今回、アクトルを「重度(虚偽事実を伴う名誉毀損、過度の中傷を伴う人格冒瀆)」と、「軽度(低俗な用語使用、デマの流布、相手を嘲笑するスラング)」の2種類に分類している。

よって、考え方にもよるが、軽度アクプルはそこまで深刻性を伴うもの、又はその運営による早急な処置や処罰が求められるものではないため、重度アクプルについて、主に議論する必要がある。その時、軽度アクプルの比重は増えているものの、重度アクプルに関しては大きく減っており、これは実名制のメリットを保證するものではないだろうか。

### 2.1.2 アクプルが原因とされる自殺者数の推移

韓国の自殺率の推移のグラフ自体がそもそも少なく、この貴重な一枚から考察を進めたい。



<https://www.sankei.com/article/20200920-O5UNUULV3RKIRPDCSBQRVY5X4U/photo/L3X7DHSCEZN7HKZIQSEJACRGKY/>

しかし、導入後の 2007 年前後に変化は見られず、ましてや上昇傾向である。この原因として、インターネットでのアクプルが、自殺率に固く結びついていないことが主に考えられる。

### 2.1.3 総括

インターネットが原因で、自殺などの事件に発展するケースは極めて少なく、これが匿名性を否とする理由にはなりにくい。また、SNS 上の治安の向上は想定以上であったため、実名制のメリットとして、治安が良くなることはかなり大きなものである。

一方で、2012 年に裁判所から「ネット掲示板利用者の表現の自由、個人情報自己決定権及びネット掲示板運用事業者の言論の自由を侵害していると判断」され、違憲判決によ

り、実名制度は撤廃されている。これは、この実名制度が過度であったためで、ユーザーの利用目的も考えた上で、適度な制限が求められている。

参考: <https://www.fmmc.or.jp/news/detail/itemid487-002252.html>

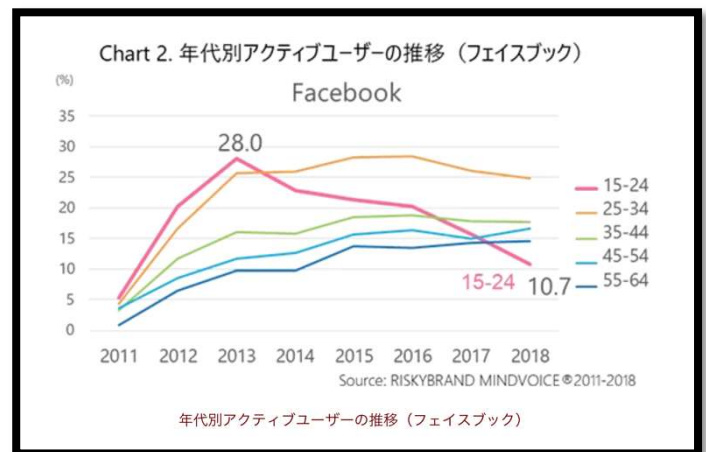
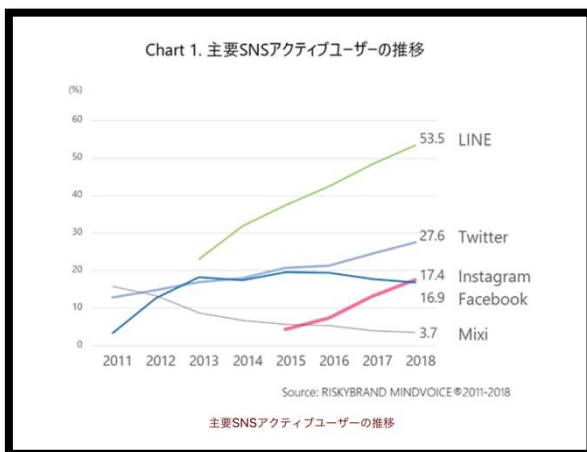
## 2.2 モデル 2 「Facebook と旧 Twitter」

大手ネットサービス「Facebook」は、実名の登録を必要としたサービスの中で、大きく発展した一つの例である。また、「旧 Twitter(現 X)」も匿名性のサービスとしても、世界最大級の SNS である。そこで、同じく世界規模まで発達したために、規模的な面などで条件が似ていそうなこの二つのサービスを比較し、実際に考察したメリット・デメリットが、どのように働いているのかを考察する。

その前に、「Facebook」が本当に実名制かどうかが問題点であるが、概ねそうと言える。それは、「Facebook」が偽名登録に対する処置が、かなり厳しいからである。報告されて(報告されなくても、作成直後である場合も多い)、かなりの割合でアカウントロックが掛けられ、アカウントロックを解除するには、それを証明する物理的な文書が必要となる。偽名登録をした場合、ここで詰んでしまい、そのアカウントはもう使えなくなる。そうなっていくと、実名制の SNS 上のアカウントの重要性は、相対的に高いという前提は保たれるが、この情報を知らない人もいるはずで、認知が無ければ、危機感には繋がらないのを考慮し、「概ねそうだ」という結論に至った。

参考: <http://nok-log.com/facebook/>

### 2.2.1 アクティブオンラインユーザー数

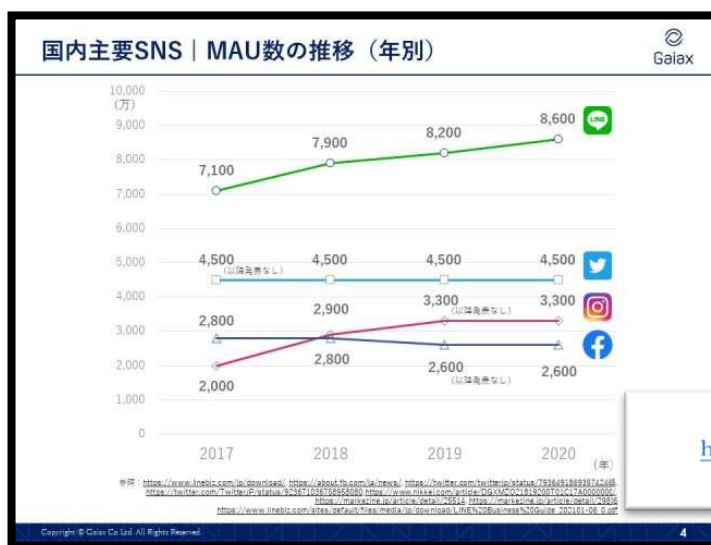


<https://webtan.impress.co.jp/n/2018/10/29/30848>

※恐らく日本国内のみのデータ

左のグラフに着目すると、他の匿名性の SNS に比べ、「Facebook」がユーザー数において伸び悩んでいるように映る。その原因として、右のグラフに目を向けると、若年層のユーザー数の減少が見られる。これには、明確な理由があまり見受けられなかったが、調べている内に、「Facebook」をわざわざ使う必要がなくなったからというのが、最終結論として浮かび上がった。根拠として、かつての若年層の利用者は共通して、会社に促されてアカウント作成していた。しかし、その文化が時間の流れで薄まった上に、娯楽として「Instagram」や「TikTok」などのまた新しいサービスが出てきたことが、若年層での伸び悩みの主な理由だと考えるのが自然ではないだろうか。

一方、実名制であることが「Facebook」を使わない理由との声もあり、実名制であることが、伸び悩みに関与していることは否定出来ない。



<https://gaiax-socialmedialab.jp/post-30833/>

また、2018年に「Facebook」は情報漏洩事故が起こり、その影響でMAU数(monthly active users)は他の値と比較すると減少することのほうが珍しいのにも関わらず、2000もの大幅な減少が見られる。さらにこれは、人為的な情報漏洩ではなく、バグによるものだという事だ。

## 2.2.2 アカウント売買のサイト数

検索してみると分かるのだが、「Facebook」を「旧Twitter(現X)」や「YouTube」などの他のサービスと比較してみると、驚くほどに差がなかった。

参考: 検索ワード「facebook フォロワー 購入」、「twitter x フォロワー 購入」、「youtube フォロワー 購入」

## 2.2.3 総括

日本では、実名制がそもそもよく思われていないことと、「Facebook」を使う必要が無くなったことが合わさり、ユーザーが減っていた。また、情報漏洩に対する危機感世界的

にあり、対策は出来ないため、その面ではそもそもの被害が少ない匿名性の方が優位にあると言える。驚くことに、実名制であることがアカウント売買に対して、何らかの効力を持っている訳ではなかった。

### 3. 分類

インターネット実名制と匿名性の優劣を考えるにおいて、それぞれのメリット、デメリットにポイントをつけて、考察するという結論に至った。そして、二つの視点に分けて考えた。それらが次の表だ。

※ポイントは5を標準とし、10点満点で審査する。差を埋めるために、平均点で考える。

#### 3.1 オーナー視点

	No.	概要	ポイント
実名制	メリット	1 自身の発言に対し、より強い責任感が生まれ、誹謗中傷の抑制が期待できる。	9
		2 “1.”によって、デマの抑制も期待でき、また発言に対する信用度が高まる。	5
		3 アカウントの大量作成を防ぐことができる。	7
	デメリット	1 実名などの公開した以外の情報が、不特定多数に公開される恐れがある。	3
		2 活発になりにくい。	4
匿名性	メリット	1 発言しやすく、その分サービスとして活発なものになりやすい。	6
		2 個人情報を登録する必要がないため、ウイルスや情報漏洩に耐性がある。	7
	デメリット	1 アカウント購入などの、不正が蔓延しやすい。	×
		2 過激な発言が多くなりやすい。	1
		3 アカウントに対する罰則や処分が機能しづらい。	0

[判断理由]

- 実名制
- └ メリット①海外では、特に悪意の強いコメントを、サイト管理者に削除を義務化する法律も少なくない。それ単純に対応が求められるコメントの総数が減ることは、非常に大きなメリットである。
  - └ メリット②発言に対する信用度は、あまりオーナーには関係ないため。
  - └ メリット③真偽は分からないが、理論上では防げているはず(ましてや私のような素人はいくつも作れないはず)なので、それ前提で考えると、アカウント処罰を効きやすくする潤滑油でもあるから。
  - └ デメリット①実名などのメールアドレスとは違って、その情報自体が重要なものが世に出てしまうと、もうどうしようもないため。
  - └ デメリット②あまり大きな差は見られなかったため。ただ、これは事実である(3ページの画像より)。

- 匿名性
- ┣ メリット①実名制-デメリット 2 と同根拠。
  - ┣ メリット②実名制-デメリット 1 と同根拠。
  - ┣ デメリット①事実関係なし。
  - ┣ デメリット②実名制-メリット 1 と同根拠。
  - ┣ デメリット③前述の通り、海外では、特に悪意の強いコメントを、サイト管理者に削除を義務化する法律も少なくない。その対応があまり意味を成さないとなると、オーナー側としては、最悪の事態である。

平均点 ┣ 実名制: 5.6 点

┣ 匿名性: 3.5 点

### 3.2 ユーザー視点

	No.	概要	ポイント
実名制	メリット	1 自身の発言に対し、より強い責任感が生まれ、誹謗中傷の抑制が期待できる。	6
		2 “1.”によって、デマの抑制も期待でき、また発言に対する信用度が高まる。	6
		3 アカウントの大量作成を防ぐことができる。	5
	デメリット	1 実名などの公開した以外の情報が、不特定多数に公開される恐れがある。	2
		2 活発になりにくい。	2
匿名性	メリット	1 発言しやすく、その分サービスとして活発なものになりやすい。	9
		2 個人情報を登録する必要がないため、ウイルスや情報漏洩に耐性がある。	8
	デメリット	1 アカウント購入などの、不正が蔓延しやすい。	×
		2 過激な発言が多くなりやすい。	4
		3 アカウントに対する罰則や処分の機能がしづらい。	4

[判断理由]

- 実名制
- ┣ メリット①治安が良くなることは良いことだが、そこまで大きなメリットに感じられなかった。
  - ┣ メリット②デマが少なくなるのは良いことだが、同じくそこまで大きく感じられなかった。
  - ┣ メリット③ユーザー目線には、全く関係のないことであるため。
  - ┣ デメリット①個人情報が世間一般に漏れてしまうことが、怖い人が多いと思われる。
  - ┣ デメリット②活発ではないサービスは、単純に面白くないため。
- 匿名性
- ┣ メリット①自由な立場で発言できることはとても良く重要なことで、これは匿名性でないといけないメリットであるため。
  - ┣ メリット②実名制-デメリット 1 と同根拠。
  - ┣ デメリット①事実関係なし。
  - ┣ デメリット②治安が悪いことは一般的に良くないことである。
  - ┣ デメリット③治安の悪化に関わる要因であるため。

平均点 ┣ 実名制: 4.2 点

┣ 匿名性: 6.3 点 (6.25 点)

## 4. 最後に

この議題について議論した論文自体が多くなく、メリットやデメリットを提示し、それがどれくらいのものであるかを、考察しまとめられただけでも、かなり有意義であった。そして、研究結果は現代の SNS の「過激な発言の深刻さ」や「匿名性の根強い人気」を裏付ける、良い結果が出て、非常に満足である。

## 謝辞

今回の研究については全て自分の力のみで成し遂げたものではありません。助言頂いた皆さんやご協力頂いた関根先生、そして何よりご指導頂いた上原先生、書面越しではありますが感謝申し上げます。